

# 家庭・地域との連携・支援の充実について



## 1. 乳幼児を取り巻く現状や課題

- 現在の社会状況においては、乳幼児の発達に必要な、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を十分に確保することが困難になっている。特に、自然と触れ合ったり、地域で異年齢の友達と遊んだり、働く人や高齢者など幅広い世代と交流したりするなどの直接的・具体的な体験が不足しているとの指摘がある。
- インターネット利用の低年齢化や長時間化に伴う乳幼児の生活や心身への影響の懸念が高まるとともに、保護者においても、乳幼児にデジタルデバイスを使わせることの是非を含め、SNS等から得る子育て情報に振り回されたりするなど、子育てに不安を抱く保護者が増えているとの指摘がある。

## 2. 家庭との連携・支援に関する現状や課題

- 一部の幼児教育施設※1においては、SNS等からの偏った情報に影響を受けた一部の保護者のニーズを優先するなどし、幼児教育※2の基本から見て必ずしも適切とは言えない活動が行われることが危惧されているとともに、保護者においても、幼児教育施設に対し、長時間預かることを求めたり、幼児への教育について過度に期待しすぎたりする傾向も見られる。

※1 幼児教育施設：幼稚園、保育所、認定こども園

※2 幼児教育：0歳～小学校就学前までの幼児教育施設における教育

- 乳幼児の健やかな成長のために、幼児教育施設と家庭が連携することが必要不可欠であるが、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について、保護者に十分共有されていない場合があるのではないかとの指摘がある。
- 障害のある乳幼児の保護者、外国人の乳幼児や海外から帰国した乳幼児等の保護者など、個別に支援が必要な家庭もある。こうした家庭に対しては、複合的な困難を抱えている可能性にも留意しつつ、早期に状況を把握するとともに、園内及び自治体や地域の関係機関との連携を図ることが重要である。

## 3. 地域との連携・支援に関する現状や課題

- 少子化、核家族化、過疎化、地域の繋がりの希薄化等を背景に、子育て中の保護者においては、情報提供や相談、助言を含め、子育てへの支援が強く求められている。
- また、幼児教育施設に在園していない乳幼児のいる家庭のうち、特に、0～2歳児のいる家庭を対象とした支援の必要性が高まっている。こうした現状に鑑み、全ての乳幼児に対し、家庭と異なる環境で多様な人と関わる機会を提供するとともに、保護者の孤立感や不安感の解消、育児負担の軽減等を各家庭の状況に応じて切れ目なく支援するため、「こども誰でも通園制度」が制度化され、令和8年度より、子ども・子育て支援法に基づく新たな給付として全国で実施されているところ。
- また、各幼児教育施設における子育ての支援の取組状況については、地域の実情や幼児教育施設の規模等により、様々である。



# 家庭との連携・支援の充実に向けた方向性（案）

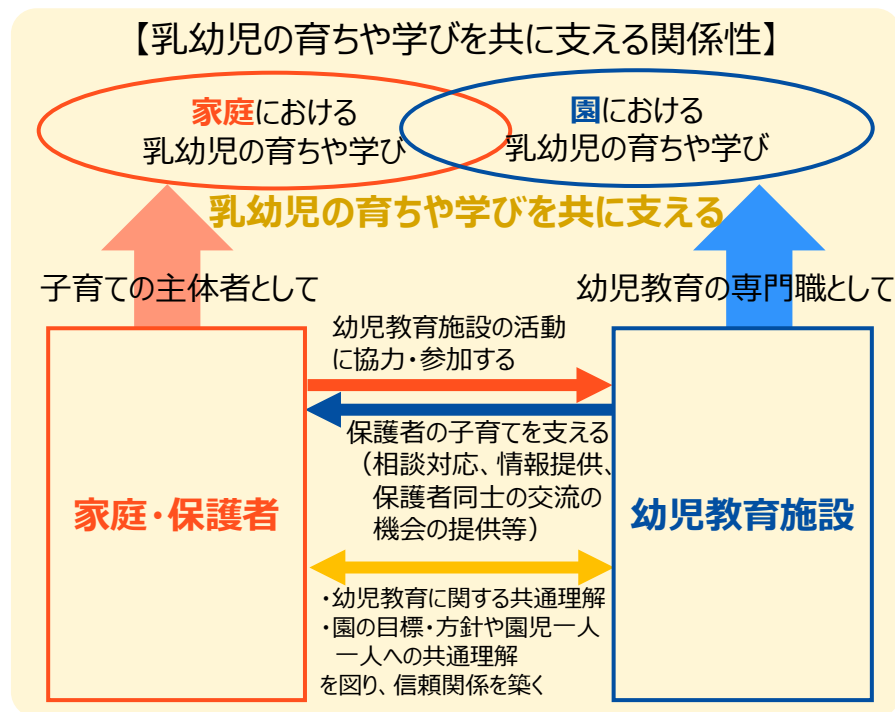
- 乳幼児の健やかな成長のためには、幼児教育施設と家庭や地域がそれぞれの有する機能や役割を互いに発揮し、支え合いながら、一体となって取り組むことが必要である。
- 家庭との連携・支援に当たっては、保護者が我が子の姿を肯定的に捉え、その成長や可能性に気付き、子育てを楽しみ、ひいては保護者自身のウェルビーイングにもつながるといった観点を大切にすべきではないか。
- また、幼児期までのこどもの育ち（例：「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」等 **参考資料①**）や幼児教育の基本的な考え方（例：「幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ」等 **参考資料②**）について、保護者をはじめ社会一般に十分理解されるよう、一層の普及・啓発を行っていくことが重要ではないか。

## 1. 家庭との連携・支援

- 子育ての主体者である保護者と幼児教育の専門性を有する幼児教育施設とが、それぞれの立場から乳幼児の育ちや学びを共に支えることが重要である。 幼児教育施設においては、そうした家庭との連携について一層の充実を図るとともに、国においても、その重要性を、幼児教育施設はもちろん、保護者にも十分理解されるよう周知するべきではないか。
- 具体的には、幼児教育施設においては、日常的なやり取りや計画・記録等の掲示・配布を通じて、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について共通理解を図るとともに、保護者の子育てを支える取組の充実を図ることが重要ではないか。

### （取組例）

- ・保護者の不安に寄り添い、相談に応じる
  - ・子育てに関する情報の提供、乳幼児期にふさわしい生活や学び、ICTとの付き合い方などの周知・啓発
  - ・保護者同士が交流する機会を提供し、悩みや経験の共有や仲間づくりを促す など
- ※在園児の保護者に対して取り組むとともに、園庭・園舎の開放や未就園児の親子登園、「こども誰でも通園制度」により来園した保護者等に対して取り組むことも重要。



## 2. 特別な配慮を必要とする乳幼児の保護者等への個別支援

- 特に、障害のある乳幼児、外国人の乳幼児や海外から帰国した乳幼児等の保護者など、より個別的な支援が必要な場合には、園長のリーダーシップの下、専門職の配置等も含め、園内体制を整備し組織的に対応するとともに、自治体の関係部局や関係機関等による専門的な支援に繋ぐことが重要ではないか。

### （専門的な支援の例）

- ・児童発達支援センター等による相談支援
- ・多言語支援センター等による制度案内、手続き等のサポート、翻訳支援員の派遣 など



## 3. 地域との連携・支援

### （1）地域の保護者の子育てを支援する取組の充実

- 幼児教育施設においては、地域全体で多様な支援ニーズを受け止める体制の一端を担うため、こども家庭センター等の関係機関との連携・協働を図りつつ、地域での保護者の子育てを支援する取組を積極的に行っていくべきではないか。
- その際、地域の実情に応じて、市町村が、幼児教育施設やその他の施設等の規模や有する機能等を考慮した上で、各施設等の役割分担を明確にすることが重要ではないか。 参考資料③

### （2）地域の人的・物的資源の活用

- 幼児教育施設においては、乳幼児の体験が一層豊かなものになるよう、地域と連携し、地域にある人的・物的な資源を積極的に活用していくことが重要ではないか。その際、乳幼児の興味・関心や必要感に基づいた活用、そこでの体験がその後の遊びの充実につながるような工夫が大切ではないか。
- また、こうした連携は、地域社会と信頼関係を築き、幼児教育への理解を醸成することにもつながる観点からも重要ではないか。

### （3）地域の幼児教育施設としての機能や施設の提供

- 幼児教育施設に在園しているか否かに関わらず、様々な家庭の乳幼児等が幼児教育の環境に関わることができるようにすることが重要である。特に幼児教育施設は、保護者にとって安全・安心に利用できる場でもある。このため、園庭・園舎の開放、未就園児の親子登園、公開講座の開催、「こども誰でも通園制度」を活用した取組等において、保護者の子育てを支援するとともに、地域の乳幼児等に対して、幼児教育の特性を生かした活動を提供する取組の充実を図るべきではないか。

#### （地域との連携の取組（例））

- 散歩中に見た麦畑に興味をもった幼児たちが、園に戻ってから調べると、麦から味噌が作られることが分かった。そこで、麦畑の御主人に手伝ってもらいながら味噌作りに挑戦した。作った味噌を使って、日ごろから交流のある高齢者施設の皆さんや麦畑の御主人を招待し、一緒にお味噌汁会をした。
- 地域伝統の七夕祭りでは、商店街の各店が七夕装飾の張り子を作って飾る。園でも七夕飾りを作って保育室に飾っていたが、商店街の店主たちに飾りの作り方を教えてもらいに行ったことをきっかけに、祭りに参加することになり、近隣の小学校の児童たちと一緒に七夕飾りを作り商店街を飾った。祭り後も、店主たちに教えてもらった竹ひごを使って、恐竜などを作る遊びが続いた。  
など

#### （乳幼児にとっての経験（例））

- 直接的・具体的な体験の充実
  - ・発達に合った素材や大きさなどの遊具を使って存分に遊ぶ
  - ・走ったり跳んだりなど思い切り身体を動かす
  - ・砂や水などの可塑性のある素材に触れて遊ぶ
  - ・花を摘んで匂いを嗅ぐ、飼育されている小動物や虫などを間近に見る
- 在園児等との交流
- 他の保護者との関わりや、幼稚園教諭、保育士、保育教諭による幼児教育の専門性に基づく関わり・援助

など

# 幼児期までのこどもの育ちを周知する資料等

## ◆「はじめの100か月の育ちビジョン」の普及啓発（概要）



▼パンフレット



▼紹介動画



▼リーフレット



▼ポスター



▼地域コーディネーター  
活動事例集



▼科学的知見に関する調査研究パンフレット等



▼保護者向けハンドブック



▼関心層向けハンドブック



▼専門職向け  
研修ガイドブック



▼専門職向け研修動画



▼保護者向け動画



▼関心層向け動画



※詳細は

はじめの100か月の育ちビジョン

検索

こども家庭庁HP : [https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo\\_sodachi](https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi)

# 幼児教育の基本的な考え方を周知する資料等

## ◆ 幼児教育の重要性お知らせポスター

ポスター

### 幼児期に 本当に大切な学びって 何ですか？

幼児期は、「遊び」の中で周囲のヒト・モノ・コトに自ら進んで関わりながら、豊かで多様な体験を通して、様々な「学びの芽」を育てていく時期です。小学校以降の学びの基礎となる「学びの芽」。そんな「学びの芽」はどのように育まれているのでしょうか？



見てね！

幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ



幼児教育は何のため？  
(約2分)



「遊び」は「学び」って  
どういうこと？  
(約7分)



「学びの芽」を育む  
多様な遊び  
(約9分)



「学びの芽」を育む  
どろだんご遊び  
(約7分)



遊びは学び 学びは遊び  
“やってみてが学びの芽”

文部科学省



(文部科学省HP)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)

## ◆ 幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ

幼児教育は何のためであるのか、幼稚園等においては、子供たちに遊びを通して、どのように資質・能力を育てているのかについて、各動画で解説しています。

動画  
コンテンツ

### 幼児教育は何のため？ (約2分)

✓ 幼児期の大切な学びが分かる動画

<https://youtu.be/MExUaZ6M3G0>



### 「遊びは学び」ってどういうこと？ (約7分)

<https://www.youtube.com/watch?v=UxAl3XWfGo>



### 「学びの芽」を育む園の工夫って？ (多様な遊び編) (約9分)

<https://youtu.be/VNjOwpuDd44>



### 「学びの芽」を育む園の工夫って？ (どろだんご遊び編) (約7分)

<https://youtu.be/VuIP2CUKq-U>



## 地域子育て相談機関

- 地域子育て相談機関は、利用者にとって敷居が低く、物理的にも近距離にあり、全ての妊産婦及びこどもとその家庭からの相談に応じ、**子育て世帯に対して情報発信**や能動的な状況確認等による**子育て世帯と継続してつながる工夫**、**関係機関との連携**を行う機関。
- この整備により、**子育て世帯との接点を増やし、こどもの状況把握の機会を増やすことを目的としている**。特に、子育て世帯の中には、行政機関であるこども家庭センターに直接相談することへの抵抗感もあり得ることから、**こども家庭センターを補完**することを想定。
- 市町村において、地理的条件、社会的条件、子育て関連施設の状況等を**総合的に勘案して定める区域ごとに整備**。

